1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 4079600526, 医療法人 ひまわり会, グループホーム光 2階ユニット, 福岡県田川郡川崎町大字田原1121番地, 令和元年8月3日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は川崎町の中心街に立地しており利用者様の買い物や外食等にはとても便利で外部との交流も図り易く、また、建物の裏側にはのどかな田園風景が広がり自然の中の散歩には最適な場所です。認知症介護に関しまして家庭的な暮らしの中で権利や尊厳が保障された生活とケアの継続、職員の質の向上・技術向上を常に目指し積極的に取り組んでいます。また、利用者様の重度化への対応は母体となる協力病院は隣接し、24時間対応で医療連携を図っています。平成30年10月から当施設におき介護職員を配置し早期対応により重度化予防に取り組み介護体制と医療ニーズに応えています。今後ますます高齢化が進んでくるなかで高齢者が社会から孤立することなく楽しく生活できるように施設がその役割を担う場になるよう社会貢献に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.kaikokensaku.jp/40/index.php

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価結果確定日. Values include 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター, 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号, 令和元年9月18日, 令和2年1月10日.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 58-64 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の方を対象とした小規模施設の運営を風通しの良いものにし、サービスの質の向上を図るとともに地域における私どものサービスの役割、認知症の方への理解や支援のあり方を一緒に考えていくことを実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の障がい者支援事業所の訪問販売があり、入居者の方が品を選び購入したり、野菜や肉魚などの食材を配達してもらい交流している。運営推進会議を開催し、ご家族様や地域包括支援センター職員と交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	川崎町内の中学校生徒の職場体験や高校生の介護事業所実習時は認知症の理解やグループホームの役割等勉強会開催し地域貢献に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まちの防災マップで当施設は浸水想定区域であり災害時の意見交換をしました。その数日後、局地的な豪雨があり利用者様2階へ避難しました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政及び地域包括支援センター主催の研修参加を通して、情報共有及び連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成30年度より身体拘束廃止委員会を立ち上げ2ヶ月1回の委員会開催し意見交換を行っている。やむを得ない事例発生時はご家族に説明し同意書をいただき、速やかな解除につとめている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待と権利擁護」を研修計画に必ず取り入れいる。認知症ケアの在り方について習得する機会を設けています。職員の意識や理解を深め、リスク管理は徹底的に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護制度を活用する事例はないが、研修計画に取り入れ理解に努めています。必要事例がある場合、活用出来るように支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時にご本人様・ご家族様に面談し介護保険制度や施設の運営・重要事項説明書や契約書などについて十分理解していただけるように説明しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時は利用者様の近況報告は必ずおこなっており、意見や要望は真摯に聞き入れ信頼関係を構築し施設運営に反映している。また、運営推進会議議事録は常時掲示し閲覧できるようにしています。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な勉強会や職員ミーティング・個人面談を開催し職員の意見や提案を可能な限り聞き入れ、良好な職場環境作りに努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回基本給昇給しています。また、年3回自己評価し人事考課と連動させて個人の実績に応じた処遇を考慮している。新雇用の職員の定着を目指し6ヶ月後は定着祝金の支給をしています。職員が永年勤続できるよう職場環境・条件の整備に努力している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたり、年齢や性別による排除は一切行っていない。現在、20～60代・男女職員が勤務している。育児休暇明けの職員が復帰し本人の要望に合わせ勤務体制の変更を行い権利保証に配慮している。外部研修や実務者研修の参加を推奨、勤務調整等し個人のスキルアップを支援している		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待防止や権利擁護等の人権教育は常に学習の機会を持つように努めている。利用者様に言葉遣いや態度は常に尊厳を持った接遇に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協や田川地区介護サービス事業所協議会、民間の研修階の参加機会を設け積極的に取り組んでおり、研修は出勤とみなしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川地区グループホーム専門部会の研修参加や川崎地区の小規模多機能施設の管理者との意見交換会によりサービス向上に取り組んでいる。ネットワークづくりは今後の課題です。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談にて自宅での生活状況の情報収集と把握、QOLの低下が無いよう積極的に関わり寄り添い支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居時等はゆっくり時間をかけご家族の不安に対する事を話合うようし、相談しやすい環境づくりに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント、ADL状況等確認し、優先すべき支援を考慮し、ケアプランを作成し実現するように心掛けています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を送る関係として相互扶助に努めています。家事を共にし食事ともに摂り、会話の中で職員も叱咤激励を受けることもあり良好な信頼関係を築いています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族訪問時は必ず近況報告しています。ご家族の要望に沿って一緒にレクリエーション等を開催していただき共にご本人を支えて行く関係を築いています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の知人が1ヶ月1回の訪問があり必ずおやつ差し入れがあり嬉しそうに会話を楽しんでいる。居室にご主人のお仏壇、遺影を祀りお参りを維持している。また、飼っていたペットを連れて訪問もあり個別支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション及び月例行事等の参加を積極的に行い利用者様が孤立しないように支援し良好な関係が保てるように努力しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し入院治療が必要となった利用者様の面会に伺ったり、ご家族様に様子を伺い必要時は相談に応じるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時よりフェイスシートやアセスメントシートにて情報収集と共有に努めている。本人の意向に基づくサービス提供に取り組んでいる。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族からの情報をもとに一人ひとりの生活歴や生活環境を尊重しサービス提供に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態は毎日のミーティングで把握に努めています。一人ひとりの保有する残存機能を発揮できるよう食事の準備やレクリエーション活動を支援しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のアセスメントの見直し、モニタリングし課題事例には家族との検討など行い個別計画書に反映している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の生活状況を細かく個人記録に記載し情報共有し、実践に生かし状態にあった介護計画書に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズや気分転換を図るためドライブ、買い物、レストランでの外食、量販店へペット見物等その時々合わせた柔軟な対応に努めています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の花公園や公共施設に出かけたり、地域行事に参加したり変化のある生活を楽しむことができるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族から主治医の情報を頂き継続受診や治療ができるよう病院同行等行いご家族の希望に沿えるよう支援しています。また、同行時、主治医とは良好な関係を築けている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医療機関との連携は密に行っており、急変時は電話報告にて医師往診や看護師の処置等速やかに行っている。また、昨年10月より施設内に看護師を配置しています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は定期的に面会に伺うようにしています。医師や看護師から情報収集、意見交換し改善傾向になれば医師より退院に向けて家族や職員に説明あり早期退院に努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針を説明し同意を得ている。状態の変化に伴いその都度意向の確認や医師、家族での話し合いを重ね方針の共有に努めている。県より配布されている「住み慣れた施設で最期まで」の冊子を用いて看取り介護の説明を行っています。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会開催時は急変に備えた応急処置方法や病院の医師や看護師が到着までの間、施設で出来るを処置等管理者が指導している。年1回AEDの使用の実技指導時、応急処置訓練を行いスキルアップに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、母体医療機関とともに訓練を実施し連携を確認するようしている。夜間を想定した訓練や緊急連絡網を利用した連絡訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権教育や接遇マナーの重要性の勉強会を実施し、プライバシー空間としての居室の位置づけを配慮している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し自己決定できるように働きかけています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人がどのように過ごしたいのか希望に添い、また、楽しいと思うことを優先していただくよう支援しています。このような支援内容は運営推進会議で報告し評価いただくようにしています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗面後、お化粧を施したり、着衣を選択したり、ご自分の好みに合わせていただいております。誕生会等は特に身だしなみを気にされ、お化粧やアクセサリーなどもつけて参加したり、個別支援しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を提供しています。利用者は昼食の下ごしらえをテーブル上で野菜の皮むきや刻み等楽しみながら一緒に作り、調理後は利用者と職員とで同じテーブルで同じメニューの食事をしています。行事メニューはお好みのものを提供しています。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量や水分量は食事ご、おやつ後等チェックしています。一人ひとりの状態に応じて居室においても水分補給できるようマグカップや水筒の準備はしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人に合わせた口腔ケアを行っています。1ヶ月1回協力歯科医院の訪問があり、定期的な健診や適切な口腔ケアの手技の指導をいただき肺炎防止に努めています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は基本的にトイレを使用し排泄に努めている。おむつからリハビリパンツから布パンツの移行も視野に入れ細やかな支援に努めている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄チェック表から看護職員が排便確認を下剤の調節を行っている。水分補給等個別ケアに取り組んでいます。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定は立てていますがご本人の体調や希望を考慮し自由な入浴ができるように努めている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時ラジオを聴いたり、イヤホンを使用しテレビを観たり、本を読むなどして個人の習慣に応じて対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人日誌に薬情のコピーをファイルしています。毎週水曜日は投薬日になっているため分包している内服薬の分薬をしています。その際、薬袋と薬情を確認し理解している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし、行事やレクリエーション時にハーモニカ演奏をし、他者が合唱をすることが張り合いとなり楽しく気分転換出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車で目的地まで行き、戸外を歩いたり外食や演劇を観に行く等行っている。また、ご先祖のお墓参りや仏様参りなど外出支援を行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は金庫で預かり管理しています。買い物時や外出時等はご本人に所持していただきレジでの支払いをするよう支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等はご挨拶としてご家族へ出しています。電話は希望時にかけています。携帯電話を所持している方は自らかけています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはゆとりある明るい空間環境づくりをし快適に過ごしていただいています。また、花や観葉植物など置き居心地いいよう配慮しています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファでテレビを観たり、時には居眠りしたり、横たわったりしています。また、自分の洗濯物をたたんだりするような自由空間になっています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の使い易いように工夫しています。大切な仏壇やマリア様を置き安心して過ごせるように配慮しています。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく車イスでもスムーズに移動できるスペースで自走できたり、手摺りを使い安定した立ち上がりや立位ができるようになっている。		